

TGM

大板ガラス搬送を支援

工場内・施工現場で省人化

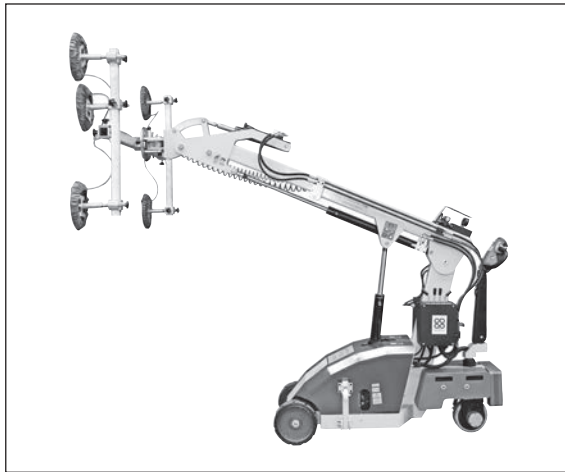
TGM(東京都千代田区、弘中崇社長、03・6261・1260)はこのほど、オーストラリア・クワトロリフト社のガラスハンドリング装置の販売を開始した。「Express」「Horizon」「Vector」「Omni」などのシリーズがあり、工場内専用、施工現場専用、工場内・施工現場兼用などさまざまな用途向けに16機種以上ある。通常の板ガラスだけでなく、曲げガラスにも対応。現場での安全性と利便性を両立する設計が好評で、世界で200台以上の販売実績を持つ。ガラス業界でも作業者の高齢化、人手不足が進んでいる。ガラスハンドリング装置を使えば、安全かつ容易に大板ガラスなどを搬送できるので、工場内や施工現場での省人化に大きく貢献する。



「Express」シリーズは工場内・施工現場兼用



「Horizon」シリーズは工場内専用



「Vector」シリーズは施工現場専用

「Express」は、工場・施工現場を問わないガラスハンドリングのベーシックシリーズ。最大350^{kg}までのガラスに対応する。キャスター付きでポータブル仕様。狭い場所でのガラス搬送に適する。

「Horizon」は、ガラス加工工場内でのガラスハンドリングに特化したシリーズ。最大350^{kg}までのガラスに対応する。電動自走式で、チルトテーブル、縦型加工機、切断機、強化炉などへの板載せが可能。

能。

「Vector」は、施工現場で自在にガラスを搬送する現場作業に特化したシリーズ。最大800^{kg}の大板ガラスに対応。電動自走式で、ロボットアームと吸着カップの組み合わせでガラスを旋回するなど、自由度が高いガラスハンドリングが可能。

「Omni」は、工場・施工現場を問わないシリーズ。最大800^{kg}の大板ガラスに対応する。既存のフォークリフトに容易に設置可能で、吸着カップ・フレーム。天井クレーンがない工場での大板ガラスの搬送に活躍する。

クワトロリフト社は2006年に創業。創業者は大手板ガラスメーカーで長年作業者の安全環境整備に携っており、ガラスの加工工場や施工現場での経験から、作業員が安全かつ容易に大板ガラスをハンドリングできる装置を開発。さまざまな用途向けのガラスハンドリング装置を設計・製造している。現場での安全性と利便性を両立する設計が好評で、創業以来世界で200台以上の販売実績を持つ。通常の板ガラスの他、曲げガラスに対応する吸着カップもある。